

西小だより

よく考え 仲間とともに やりぬく子

飛躍を願う

校長 水野 聡

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。保護者のみなさまには、冬休み中の子どもたちの健康な生活や宿題の見届けなどにご協力をいただきありがとうございました。また、地域のみなさまには、子どもたちの安全安心な地域での生活にご協力をいただきありがとうございました。

さて、年始恒例の風物詩である箱根駅伝が今年も行われました。今年は青山学院大学、駒澤大学、國學院大學、早稲田大学、中央大学で優勝争いとなると言われていました。その中でも出雲駅伝2025の優勝の國學院大學や、全日本大学駅伝2025で優勝した駒沢大学が有利ではないか。大学三大駅伝の2つを逃した青山学院大学には、学生長距離界最高と言われている黒田朝日選手がいながらも箱根駅伝3連覇を叶えることができるのかが注目されていました。青山学院大学は往路スタートでいきなり想定外の1区16位となり、なかなか上位に上がれず原晋監督も厳しい結果となることも考えていたようですが、徐々に順位を上げ、箱根峠越えのコースである5区に急遽抜擢した黒田朝日選手が、5位で襷（たすき）を受け、3分以上先を走る先頭の早稲田大学を迫りました。朝日選手の脅威的な走り、前を走る他大学の猛者を全員抜き去り、一位で芦ノ湖にある往路のゴールテープを切り、青山学院大学が往路優勝しました。二日目のレースでも青山学院大学は一度も一位を譲ることなく、終わってみれば往路、復路、総合の完全優勝でした。大会新記録づくめで完全優勝した青山学院大学も、箱根駅伝史上4人目の‘山の神’の称号が与えられた黒田朝日選手も各大学の監督が‘怪物級’‘バケモン級’と称する素晴らしい選手でした。感動しました。優勝した青山学院大学に限らず、どのチームも選手の育成だけでは結果を出すことはできません。選手やチームを支える体制づくりの積み上げの結果によるものです。走者に給水ボトルを渡す役、沿道からタイムを伝える役、マッサージをする役、走り終えた選手をタオルで包む役、荷物を運ぶ役等々。一人一人が担う役割を全うすることが結果につながります。



令和7年度川辺西小学校も残すところあと3ヵ月弱。各クラスとも、最終ゴールとして目指すところは、学級目標の達成です。学年、クラスにより達成する姿は異なりますが、箱根駅伝のように、一人一人がクラスの仲間と協力しながら自分の役割を果たし、‘このクラス・この仲間でよかった’と思えるような指導を大切にしていきたいと思います。

（追記）選手として走ることは叶わなかった部員が、走者に給水ボトルを渡した後、道路に一礼をして、箱根駅伝に賭けた4年間を終えた学生の姿が放映された時は切ないものがありました。